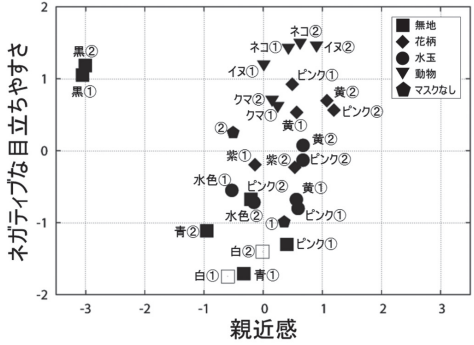
顔印象の定量化に基づく顔に関する製品の評価

研究概要

キーワード　顔／表情／化粧／印象／定量化

顔は“その人が誰であるか”を示し、またその人の様々な情報の提示装置としての役割を担う。さらに私たちは人前に出る時、化粧、メガネ、アクセサリーなどを加えることで、顔を装う。当研究室では、顔や表情の印象についての実験的検討を行い、顔の印象の定量化とその視覚化を試みてきた。

就活メイクの印象、ファッションマスクの印象、涙袋と目の大きさ知覚、などの研究を実施してきた。実験では自前で顔画像の撮影や加工を行い、ディスプレイに呈示して、実験参加者に魅力や印象の評定を行ってもらう。以上の手法で顔の印象を定量化し、メイクやマスクなどが顔の印象にどのような影響を及ぼすか検討する。



ファッションマスクを着用した顔画像の印象評価実験の結果、マスクの模様や絵柄による印象の違いを図示することができました(新井・渡邊, 2017)。マスクで自分が意図する方向に、顔の印象を演出できる効果が期待できます。

今後の展開やメッセージ

研究室には実験用顔画像を撮影する環境と、顔研究のノウハウがあります。その手法を顔に関わる製品の評価に応用することで、人が顔に対して抱く印象を定量化し、自分がなりたい顔になるためにはどうすれば良いか、データに基づいて検討することが可能となり、科学的根拠に基づいた製品開発を行うことが期待できます。

研究者情報

渡邊 伸行 教授・博士(心理学)
情報フロンティア学部　心理科学科
所属研究所：感動デザイン工学研究所、
地方創生研究所、
KIT×KAJIMA 3D Printing Lab

研究者情報URL
https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyouinroku/a/AIAIF.html
https://researchmap.jp/n_wtnb